

# 無言館と、かつてありし信濃デッサン館

The vision of Kuboshima Seichiro: Founder of two museums to artists that died young

# 窪島誠一郎の眼



左から 関根正二《自画像》1916年 | インク・紙 | 長野県立美術館(信濃デッサン館コレクション) / 原田新《自画像》1936年 | 油彩・キャンパス | 無言館 / 久保克彦《自画像》 | 水彩・紙 | 無言館 / 伊藤文雄《自画像》 | 油彩・板 | 無言館 / 桑田一彦《自画像》1940年 | 油彩・キャンパス | 無言館 / 渡辺武《自画像》 | 油彩・キャンパス | 無言館 / 五十嵐弘《自画像》1933年 | 油彩・キャンパス | 無言館  
背景: 村山槐多《猫を抱ける裸婦》1916年 | 木炭・紙 | 長野県立美術館(信濃デッサン館コレクション)

開館時間 | 10:00—17:30 展示室への入室は17:00まで | 休館日 | 月曜日ただし、10月14日[月・祝]、11月4日[月・振替休日]は開館、翌日休館。

観覧料 | 一般 1,200円(1,000円) 70歳以上 600円(500円) 大学生以下 無料

- ・( )内は前売及び20名以上の団体料金。・収蔵品展、ロタン館も併せてご覧いただけます。
- ・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料。

主催 | 静岡県立美術館 | 特別協力 | 一般財団法人戦没画学生慰霊美術館無言館 | 協力 | 長野県立美術館  
特別協賛 | 株式会社アイワホールディングス、株式会社アイエイアイ | 協賛 | 鈴与株式会社、はごろもフーズ株式会社

2024年 10月12日[土]—12月15日[日]

静岡県立美術館  
Shizuoka Prefectural Museum of Art  
つながる、次へ

The vision of Kuboshima Seichiro: Founder of two museums to artists that died young



窪島誠一郎(1941)という稀有な目利きによって実現したふたつの美術館、〈信濃デッサン館〉と〈無言館〉のつながりに目を向ける初めての展覧会です。1997年、信州上田に〈無言館〉が誕生しました。戦争で帰らぬ人となった画学生たちが遺した絵や彫刻を集めた美術館です。どれも未熟ではあっても、遺族によって大切に守られてきたものばかりでした。訪れる者は、遺作を通して、彼らを死なせた戦争と向き合うことになります。

無言館館主・窪島誠一郎がこの地を選んだのは、すでに1979年に、独力で〈信濃デッサン館〉を建設していたからです。その名の通り、村山槐多、関根正二、野田英夫ら夭折の画家のデッサンを中心としたコレクションでした。しかし、2018年に惜しくも閉館、コレクションは長野県に譲り渡されました。

〈信濃デッサン館〉なくして、〈無言館〉はありませんでした。病と戦争という違いはあっても、人生半ばで世を去った彼らは最期まで絵筆を手放さず、絵を描きたいという思いを共有しています。人はなぜ絵を描くのか、その情熱、魂にふれていただく展覧会です。



信濃デッサン館(1979年開館)

## 展覧会構成

### 序章〈自画像〉

展覧会は、みなさんが戦没画学生たちの自画像と向き合うところから始まります。自画像とは、最期まで絵を描こうとした画学生たちが自分自身を見つめた痕跡です。そこに、信濃デッサン館旧館主関根正二の自画像を添え、夭折の画家たちを集めたふたつの美術館へご案内します。

### 第1室〈遺された絵と言葉〉

たとえ未熟で描きかけの絵であっても、それらは絵と向き合う凝縮された時間の中から生まれたものばかりです。ふたりの画学生(関口清、佐藤孝)を取った戦没学生遺稿集「きけわだつみのこえ」も紹介します。

### 第2室〈無言館の誕生〉

無言館の誕生に至る道をたどります。出発点は画家 野見山睦治の遺族訪問から生まれた一冊の「折りの画集」(1977年刊行)でした。野見山の戦中・戦後の画業を振り返るとともに、無言館とは何かを考える部屋です。



無言館(1997年開館)

### 第3室〈最期まで描こうとしたもの〉

家族や恋人の姿、裸体画、身近な風景など、画学生が美術学校や故郷を離れるまで取り組んだ絵が並びます。一糸まとわぬ人間の裸体と向き合い、その姿を描くことは、軍服に身を包む兵隊生活の対極にあったはずで

### 第4室〈静岡出身戦没画学生〉

静岡県ゆかりの5人の画学生(佐藤孝、野末恒三、中村萬平、桑原喜八郎、曾宮俊一)の足跡を紹介します。

### 第5室〈戦争と向き合う〉

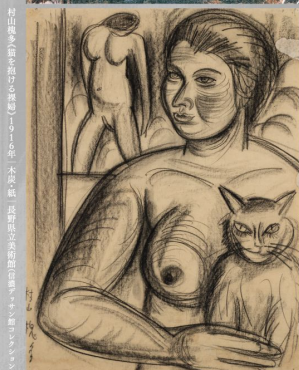
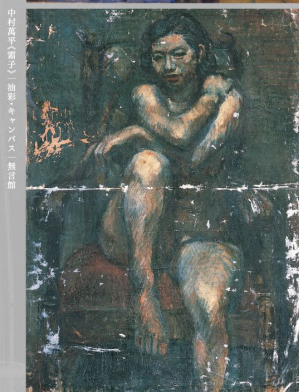
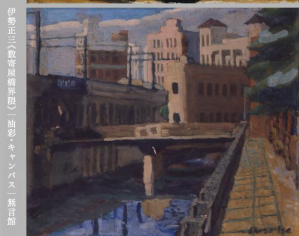
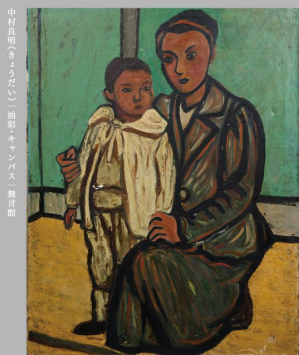
すでに大家であった従軍画家(藤田嗣治、小磯良平)から兵士として死んだ画家(豊光)、戦地でなお絵筆を持った画学生(日高安典、椎野修)など、さまざまな戦争体験がさまざまな絵を生み出しました。戦地と故郷の家族や友人との間をつないだスケッチ入りの軍事郵便も紹介します。



豊光《眼のある風景》1938年 | 油彩・キャンバス | 東京国立近代美術館

### 第6室〈窪島誠一郎の眼〉

東京にキッドアイラックホールを開設、雑誌「デフォルマシオン」を刊行するなど、窪島誠一郎の1960年代の旺盛な活動から、信濃デッサン館へと至る足跡をたどります。そして、デッサン館開館時の展示を8人の画家(村山槐多、関根正二、野田英夫、松本竣介、戸根孤雁、吉岡憲、広幡憲、古茂田守介)で再現します。



左から 関根正二《自画像》1916年 | インク・紙 | 長野県立美術館(信濃デッサン館コレクション)/原田新《自画像》1936年 | 油彩・キャンバス | 無言館、久保京彦《自画像》水彩・紙 | 無言館/伊藤文雄《自画像》「旅影-戦中無言館」/桑田一彦《自画像》1940年 | 油彩・キャンバス | 無言館/菅沼武《自画像》油彩・キャンバス | 無言館、五十嵐弘《自画像》1935年 | 油彩・キャンバス | 無言館/曾宮俊一《軍を抱ける陣痛》1916年 | 木炭・紙 | 長野県立美術館(信濃デッサン館コレクション)

開館時間 | 10:00—17:30 展示室への入室は17:00まで | 休館日 | 月曜日 | ただし、10月14日[月・祝]、11月4日[月・振替休日]は開館、翌日休館。

観覧料 | 一般 1,200円(1,000円) 70歳以上 600円(500円) 大学生以下 無料

・( )内は前売及び20名以上の団体料金。・収蔵品展、ロタン館も併せてご覧いただけます。

・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料。

主催 | 静岡県立美術館 | 特別協力 | 一般財団法人戦没画学生慰霊堂美術館無言館 | 協力 | 長野県立美術館

特別協賛 | 株式会社アイワホールディングス、株式会社アイエイアイ | 協賛 | 鈴々株式会社、はごろもフーズ株式会社

2024年 10月12日[土]—12月15日[日]

静岡県立美術館  
Shizuoka Prefectural Museum of Art  
つながる、次へ

無言館と、かつてありし信濃デッサン館——窪島誠一郎の眼

The vision of Kuboshima Seichiro: Founder of two museums to artists that died young

■ コーポレーション・デイ(観覧無料日)

10月16日[水]は、株式会社アイワホールディングスのご協賛により、観覧料が無料となります。

■ 関連イベント

開幕記念講演会「絵好き・絵狂い・絵菟め」

10月12日[土] 14:00—15:30

講師:窪島誠一郎氏(無言館館主、旧信濃デッサン館館主)

会場:当館講堂 \* 申込不要、本展観覧券半券が必要です。

講演会「あなたなら、どんな自画像を描きますか？」

10月19日[土] 14:00—15:30

講師:森村泰昌氏(美術家)

会場:当館講堂 \* 申込不要、本展観覧券半券が必要です。

(株)アイエイアイ プレゼンツ

対談「ふたつ美術館をつかった話」

10月26日[土] 14:00—15:30

講師:窪島誠一郎氏(無言館館主、旧信濃デッサン館館主)、

檀ふみ氏(俳優)

会場:当館講堂

\* 要事前申込・全席指定・抽選、本展観覧券半券が必要です。

定員等の詳細や申込方法は、

約1か月前に当館ウェブサイトにてお知らせします。

(株)アイワホールディングス プレゼンツ

演奏会「天満敦子ソロ・コンサート」

10月27日[日] 14:00—15:00

演奏者:天満敦子氏(ヴァイオリニスト)

会場:当館講堂

\* 要事前申込・全席指定・抽選、本展観覧券半券が必要です。

定員等の詳細や申込方法は、

約1か月前に当館ウェブサイトにてお知らせします。

対談「戦争と食—関口清『夢の落書帳』をひとく」

11月9日[土] 14:00—15:30

講師:荒俣宏氏(作家)、木下直之(当館館長)

会場:当館講堂 \* 申込不要、本展観覧券半券が必要です。

■ 次回展覧会

「生誕140年記念 石崎光路」展

2025年1月25日[土]—3月23日[日]

■ 静岡市美術館展覧会のご案内

「写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に」10月4日[金]—11月17日[日]

「キース・ヘリング展 アートをストリートへ」11月28日[木]—2025年1月19日[日]

■ チケット販売所

前売り券は2024年10月11日(金)まで販売

〈前売・当日券〉

チケットぴあ[Pコード:687-017]、セブンチケット[セブンコード:106-800](セブンイレブン)、

ローソンチケット[Lコード:43826](ローソン、ミニストップ)、CNプレイガイド(ファミリーマート)、静岡県立美術館

〈前売券のみ〉

大和文庫、戸田書店(江尻台店)、静岡市美術館ミュージアムショップ

■ 交通案内

JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分

JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分、または北口から静鉄バスで約30分

JR「東静岡駅」南口からタクシーで約15分、または静鉄バスで約20分

静鉄「県立美術館前駅」から徒歩で約15分、または静鉄バスで約3分

東名高速道路・静岡IC、清水ICから車で約25分、日本平久能山スマートICから車で約15分

新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

ウェブサイト | <https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

お問合せ | 企画総務課 TEL 054-263-5755 FAX 054-263-5767

学芸課 TEL 054-263-5857

館長美術講座スペシャル鼎談

「お手伝いは見た、窪島誠一郎とは誰か」

11月17日[日] 14:00—16:00

講師:窪島誠一郎氏(無言館館主、旧信濃デッサン館館主)、

原田光氏(無言館館主お手伝い、元岩手県立美術館館長)、木下直之(当館館長)

会場:当館講堂 \* 申込不要、本展観覧券半券が必要です。

映画上映会

10月20日[日]、11月16日[土] 13:00—16:15

SBCスペシャル番組「生ききる」(60分)

森内康博監督「二十歳の無言館」(120分)

会場:当館講堂

\* 申込不要。10月20日は「生ききる」から、

11月16日は「二十歳の無言館」から上映予定。

担当学芸員によるフロアレクチャー

11月8日[金]、12月6日[金] いずれも14:00—14:40

集合場所:第1展示室(要観覧券)

わくわくアトリエ

12月8日[日]

対象:小学生 会場:実技室 \* 要申込・要観覧券

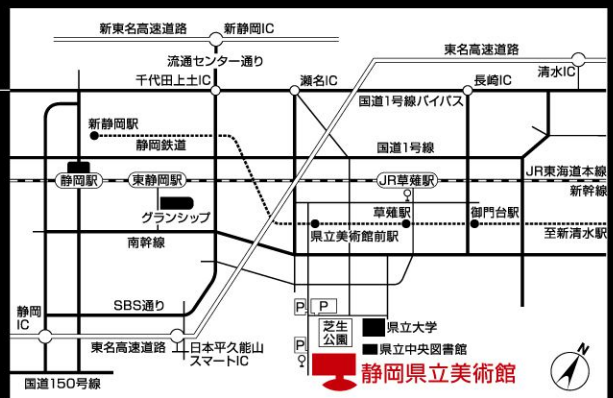
実技講座

11月30日(土)、12月1日[日]

対象:中学生以上 会場:実技室 \* 要申込・要観覧券

定員等の詳細や申込方法は、

1か月前に当館ウェブサイトまたは館内配架チラシでお知らせします。



静岡県立美術館  
Shizuoka Prefectural Museum of Art

つながる、次へ